

つなごう∞育てよう∞いっしょに

羽村市の小中一貫教育

～ 義務教育 9年間を通した一貫教育を目指して ～

小中一貫教育は、小学校と中学校が連携を深め、児童・生徒一人一人の個性を伸ばしたり、人間性・社会性を育てたりすることを目指して取り組んでいるものです。

ここでは「学力の向上」と「中1ギャップ(※1)の解消」を大きな視点としてこれまでの取り組みをふりかえってみました。

では、現在羽村市立小・中学校で進めている小中一貫教育の取り組みの様子について報告します。



個性の伸長・人間性や社会性の育成を目指して

「学力の向上」の視点から

～小学校と中学校の先生が授業改善に向けて連携しています～



「中1ギャップの解消」の視点から

～小学生と中学生のふれあいや、先生たちのかかわりあいを大切にしています～



(※1) 小学校から中学校へ進学して、新しい生活や学習へうまく適応できなくなってしまう様子のことを言います。

羽村第一中学校区 共通テーマ「5つのつなぐ」(※2)

児童と生徒の交流 (羽村東小学校より)

本校では、中学生が学校行事に参加してくれています。運動会では吹奏楽部が入場行進の演奏をしてくれました。

東小地域フェスティバル(※3)では「竹を使った物作り」のため指導補助でも活躍してくれています。

生き生きと優しく接してくれる中学生の姿に児童は憧れを抱き、自分が成長していく際の目標としています。



児童と生徒の交流 (羽村西小学校より)

羽村西小学校で開かれた「星空のコンサート」(※4)には、中学生がそれぞれの出身の小学校の演奏に参加しました。

一中校区4校の吹奏楽部・オーケストラで合同演奏が行われました。

中学生からは、「自分たちの演奏の力を磨くとともに、行動や態度面でも、小学生に憧れをいだいてもらえるようにしたいです。」という声が聞かれました。



中学校の先生と学ぶ授業 (小作台小学校より)

「授業でつなぐ」を合言葉に乗り入れ授業や交流授業(※5)を行っています。キャラクターに扮した中学校英語教員が小学校の外国語活動の指導に参加したり、社会科や美術科教員の専門的な指導による授業を実施したりしています。「中学校の英語は楽しそう。」「早く授業を受けてみたい。」と、中学校への不安が一気に期待へと変わっていきます。



先生たちの交流 (羽村第一中学校より)

「生活指導・特別支援教育でつなぐ」では、小中の教員が定期的に交流し、授業参観や情報交換等を実施しました。「小・中生活指導・特別支援教育懇談会」では、あいさつや生活面での共通ルール、さらには配慮の必要な生徒の指導方法など、小・中で一貫して取り組むことができる内容を確認し、児童が、中学校入学後もスムーズに適應できるようにしています。



羽村第二中学校区 共通テーマ「個々彩々」

～地に根ざし 明日を切り開く はむらっ子～

先生と保護者の交流 (富士見小学校より)

学校と家庭の連携を深めることによって、家庭の教育力を高めようと、今年度2回の親学(※6)を開催しました。

1回目は「家庭学習」、2回目は「思春期の子育て」を話題に取り上げ、家庭での子どもへの関わり方について自由に意見交流をしました。

他学年の家庭の様子もわかるため、教員・保護者それぞれにとって有意義な時間となりました。



中学校の先生と学ぶ授業 (栄小学校より)

羽村第二中学校教員との連携を図り、小学校への乗り入れ授業を実施しました。これは、児童が中学校へ進学するにあたり中学校の教員とのかかわりや、授業の様子を肌で感じるなどを通して、中学校生活への不安の解消につなげることも目的としています。

小学校1年生から9年間の英語の学習を積み重ねているので、英語の力がしっかり身に付いています。



児童と生徒の交流 (松林小学校より)

中学校の部活動との交流を実施しました。この活動のひとつとして羽村第二中学校演劇部の生徒たちが楽しい劇を見せてくれました。

低学年の児童は、舞台上の演技、台詞の言い回し等をとても興味深そうにみていました。

中学生たちは、低学年児童でも分かりやすく面白い劇を作ろうと、相手を意識した工夫をしてくれました。



児童と生徒の交流 (羽村第二中学校より)

ハートフルフューチャー(※7)の取り組みでは、生徒会が中心となって人権学習会(ハートフルミーティング)を実施しています。

小学校の代表児童が出席し、いじめについて話し合いました。人権意識を高めるよい機会となっています。

ハートフルミーティングを生かして人権研修会を行い、在校生への啓発につなげた小学校もありました。



羽村第三中学校区 共通テーマ「むすぶ・ひびく・きらめく」

中学校の先生と学ぶ授業 (武蔵野小学校より)

児童・生徒の学力向上を目指し、小・中両校教員が、乗り入れ授業を行っています。

今年度は、「算数・数学科(小6・中1)」「外国語活動(小5・小6)」「家庭科(小6・中2)」「理科(小4)」で実施しました。

これらの取組みが「学習の深まり」「中学校の学習への関心・意欲の高まり」にもつながっています。



児童と生徒の交流 (羽村第三中学校より)

中1ギャップの解消につながる取組みのひとつとして、武蔵野小学校6年生が中学校に出向き、興味のある授業を選び受講する活動を行っています。受講後は部活動体験も行います。

多くの児童は、「中学校生活への不安が減った。」といった感想を述べており、中学校生活をより身近に感じながら、4月からの生活に向けて頑張ろうという意欲につながっています。



※2 羽村第一中学校区では、①教科でつなぐ ②生活指導・特別支援教育でつなぐ ③授業でつなぐ ④子どもでつなぐ ⑤地域でつなぐの「5つのつなぐ」を目指して実践しています。

※3 地域の方を講師としてお招きし、竹細工作りを教わります。材料の竹は、地域に残る竹林の竹を使用しています。

※4 羽村西小学校金管バンドと羽村東ジュニアオーケストラ・小作台小学校ジュニアバンド・羽村第一中学校吹奏楽部による夏の演奏会です。

※5 中学校教員が小学校の授業の授業補助を行うものを「乗り入れ授業」、小学校教員が中学校の授業参観をしたり、中学校の授業を小学生用にした出前授業をしたりするのを「交流授業」といいます。

※6 学校がPTAと連携を図りながら家庭教育に対する支援を行うため講座等を開くものを「親学」と呼んでいます。

※7 羽村第二中学校区の進める特別活動に関する取組みのひとつで、人権尊重やいじめ防止に向けての啓発活動を小中4校合同で実施するものです。



小中一貫教育を通して

「学力向上」「中1ギャップの解消」という2つの視点から見たところ、各校区・各学校の取組みを通して、次のような成果が見られるようになりました。

その1：学力の向上が見られています

「東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果（中2英語）です。

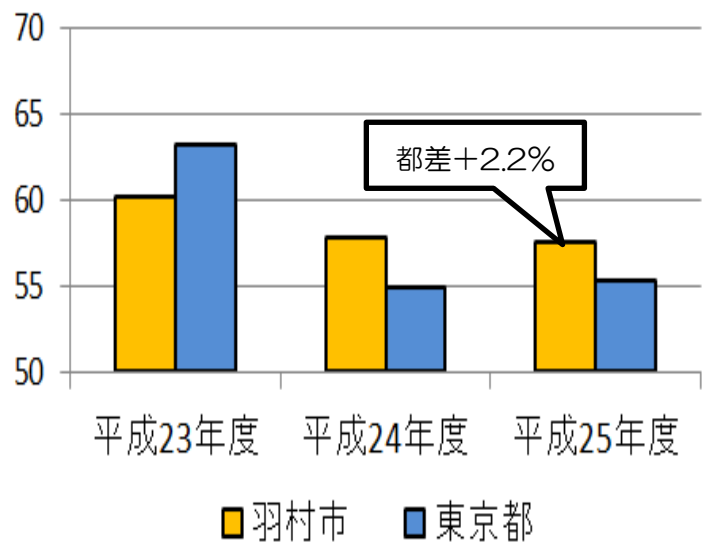
これを見ると平成24年度から羽村市の平均正答率が東京都を上回っていることがわかります。

日頃から小学校の先生と中学校の先生が授業を見せ合って研修したり、中学校の先生が小学生に授業したりした成果の表れです。

これは、他の教科でも見られるようになっています。



(%) 学力向上を図るための調査における都平均正答率との比較



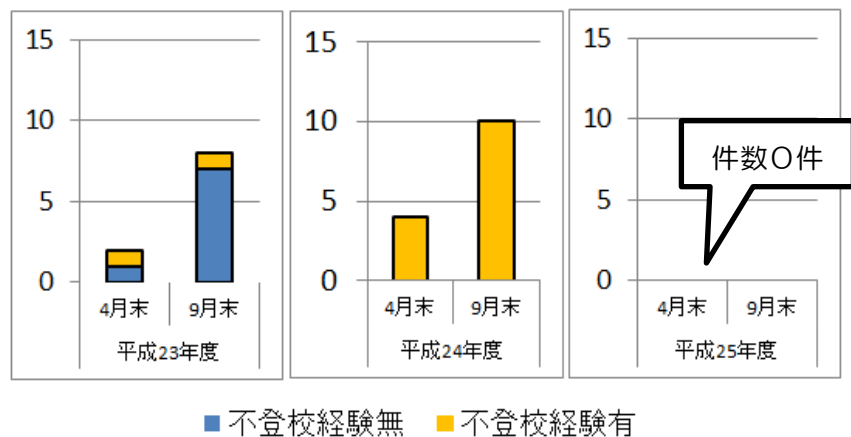
その2：中学校1年生の新たな不登校（※8）の数が減っています

小学生の時に不登校経験のなかった生徒が、中学生になってから新たに不登校になるケース（グラフ青色）が2年連続で0件になっています。更に平成25年度は、9月末における中学校1年生の不登校数（グラフ黄色）も0件になっています。

小中一貫教育を通して、中学校生活への不安をとりぬくこととした先生たちの取組みの成果が出ていると言えます。



(件) 中学校1年生の不登校件数



(※8) 病気や経済的な理由等を除いて、「学校に登校しない」「登校したくてもできない」状況のことを言います。